



性差の視点 高岡高生学ぶ

県女性財団が講座

高岡

県女性財団の出前講座が20日、高岡高校（高岡市中川園町）で開かれ、加藤美砂子お茶の水女子大副学長が、性差を考慮した「ジェンダード・イ

ノベーション」の大切さを1年生に訴えた＝写真。

加藤副学長はイノベーションは新しい組み合わせと説明。薬の効き方やシートベルトの開発など性差の視点がなかった例を挙げ、「ジェンダード・イノベーションの可能性を広げるためには、多様性を受け入れて包摂するような社会をつくる必要がある。一人一人が社会の一員として考えてもらいたい」と述べた。

出前講座は、性別に関わる固定的な考え方にとらわれず進路を選ぶ能力を身に付けてもらおうと県女性財団が年1回、県内の高校で開いている。